



亀っ子だより

第16号

— 亀崎小学校 校長通信 — 2019年12月23日

2学期終業式 校長の話

みなさん、2学期が今日で終わります。この2学期を振り返ってみて、一番心に残っていることは何ですか。私は、なんといっても運動会です。みなさんが力いっぱい走ったり、競技したり、踊ったりする姿は、とてもすがすがしいものでした。きっと、見に来てくださったお家の人も地域の人も、みなさんの元気を受け取ってくださったことと思います。もう一つは、6年生の皆さんと修学旅行に行ったことです。とっても楽しかった。一緒にトランプをしてくれた人もいました。たくさん話しかけてくれた人もいました。修学旅行のすべてが、私にとってすごく楽しい思い出です。

さて、この冬休み、みなさんに頑張ってもらいたいことがあります。それは、家のお手伝いをすることです。お正月までの間、大掃除をしたり、料理を作ったり、お正月の買い物をしたり、お家の人は大忙しです。お家の人が忙しいとき、みなさんができることを見つけてお手伝いを頑張ってもらいたいのです。まずは自分の部屋の掃除をしましょう。そして、お家の人と一緒に仕事をして、汗を流しましょう。お手伝いが終わったら、お家の人と楽しい時間を過ごしてください。おいしい料理やお餅を食べたり、ゲームをしたり、初もうでに出かけたり、買い物に出かけたり、お家の人との時間を大切にしてください。お手伝いをする事、お家の人と楽しい時間を過ごすことが私からみなさんへの宿題です。

そして、最後にもう一つ、大切な宿題です。それは、みなさんが大きなけがをすることなく、大きな病気をすることなく、そして決して交通事故に遭うことなく、1月7日の始業式、元気に先生方と校長先生と体育館で会うことです。私からの宿題を忘れず、健康で楽しい冬休みにしてください。

トイレのスリッパを揃えている子に出会いました

実は、亀崎小のトイレのスリッパがなかなかそろわないことに私は悩んでいます。毎日の生活の中で、時間に追われる子どもたちの慌ただしさの表れかと思い、トイレのスリッパのことを子どもたちになかなか言い出せずにいます。忙しいと心を失うことはよくあることです。

そんな中、先日、しゃがんでトイレのスリッパをそろえていてくれる子に出会いました。とてもうれしく思い「スリッパをそろえていてくれるんだね。ありがとう」と声をかけました。時間に追われる学校生活ですが、亀崎小のどのトイレも次に使う人のためにスリッパがそろう日が来ることを願っています。

サンタクロースっているんでしょうか

みなさんは、サンタクロースはいると思いますか？「いないよ」と言う人もいれば、「小さい頃は信じていたけど、今は…」と言う人もいます。

今から、120年ほど前、バージニアという8歳の女の子が「サンタクロースは、本当にいるのですか？」とサン新聞という新聞社に手紙を書きました。そして、サン

新聞は、その手紙の返事を、社説に載せました。今回は、そのお話を紹介します。

〈手紙〉

記者様

わたしは8つです。

わたしの友達に「サンタクロースなんていないんだ」と言っている子がいます。パパに聞いてみたら「サン新聞に問い合わせさせてごらん。新聞社でサンタクロースがいると言うなら、そりゃもう、確かにいるんだらうよ」と言いました。

ですからお願いします。教えてください。サンタクロースって、本当にいるんでしょうか。
バージニア=オハンロン より

〈1897年9月21日 ニューヨーク・サン新聞 社説〉

バージニア、お答えします。サンタクロースなんていないんだというあなたのお友達は間違っています。

【中略】

バージニア。サンタクロースがいるというのは、決して嘘ではありません。この世の中に、愛や、人への思いやりや、まごころがあるのと同じように、サンタクロースも確かにいるのです。

あなたにもわかっているでしょう。世界に満ちあふれている愛やまごころこそ、あなたの毎日の生活を、美しく、楽しくしているものだということを。

もしもサンタクロースがいなかったら、この世の中は、どんなに暗く寂しいことでしょう。あなたのようなかわいらしい子どものいない世界が考えられないのと同じように、サンタクロースのいない世界なんて想像もできません。

サンタクロースがいなければ、人生の苦しみを和らげてくれる子どもらしい信頼も、詩も、ロマンスもなくなってしまうでしょう。わたしたち人間の味わう喜びは、ただ目に見えるもの、手で触るもの、感じるものだけになってしまうでしょう。また、子ども時代に満ちあふれている光も、消えてしまうことでしょう。

【中略】

サンタクロースを見た人は、いません。けれども、それはサンタクロースがいらないという証明にはならないのです。この世界で一番確かなこと、それは、子どもの目にも、大人の目にも、見えないものなのですから。

【中略】

目に見えない世界を覆い隠している幕は、どんな力の強い人にも、いいえ、世界中の力持ちがよってたかっても、引き裂くことはできません。

ただ、信頼と想像力と、詩と愛とロマンスだけがそのカーテンを一時引きのけて、幕の向こうのたとえようもなく美しく輝かしいものを見せてくれるのです。

その美しく輝かしいもの、それは人間のつくったでたらめでしょうか？

いいえ、バージニア、それほど確かな、それほど変わらないものはこの世には他にないのですよ。

サンタクロースがいらないですって？

とんでもない！うれしいことに、サンタクロースはちゃんといます。それどころか、いつまでも死なないでしょう。一千年の後までも、百万年の後までも、サンタクロースは、子どもたちの心を、今と変わらず喜ばせてくれることでしょう。

【「サンタクロースっているんでしょうか？」 偕成社 中村妙子 訳 より】

わたしは、この話が大好きです。この話を読んで以来、サンタクロースがこの世にいと信じて疑わなくなりました。この世の中で一番確かなもの、それは目に見えない愛情や信頼や思いやりや誠実さだと信じるのと同じように……。

亀崎小のすべての子どもたちとそのご家族にとって、この冬休みが楽しいものになることを心から願っています。